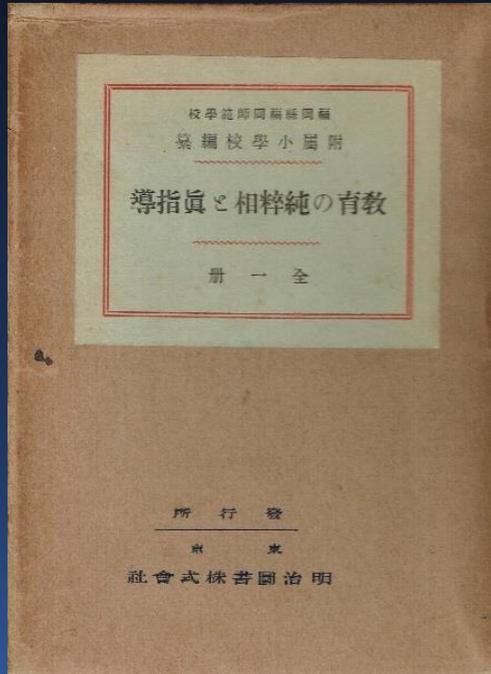




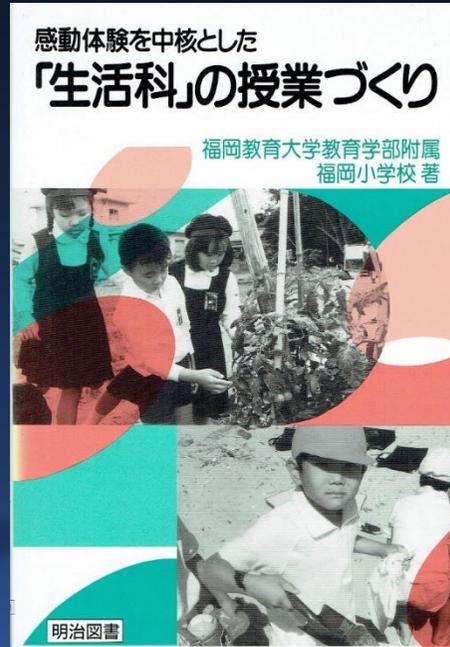
未来社会を創造する主体を 育成する教育課程の編成

子供の文脈を重視した探求の学び

142年の歴史 我が国の教育課程研究への貢献 1876～2019



九州の
教育のメッカ



生活科の
開発研究



総合の
開発研究

昨年度の成果 学習指導要領試案

平成29年度 教育研究発表会

平成27～30年度 文部科学省研究開発学校指定 第3年次

学習指導要領試案 実践事例集

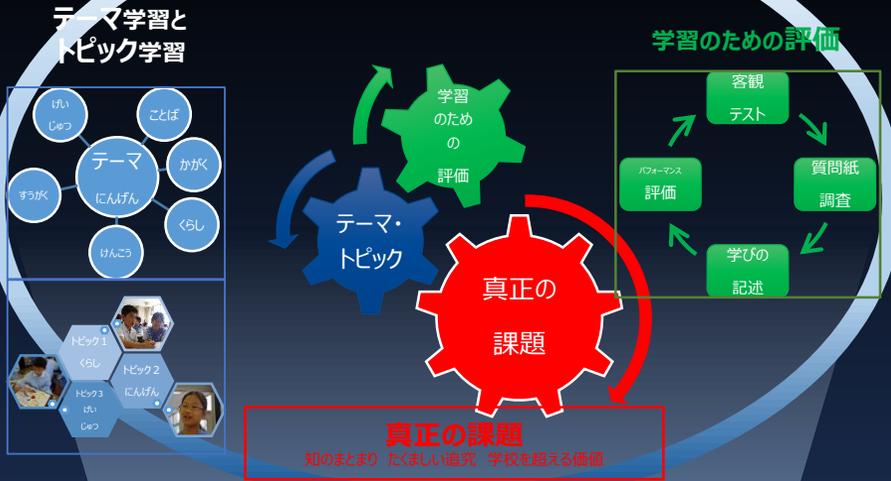
カリキュラムの基準

シンプルな内容構成 つながりが見えやすい構造

Fukuoka Primary School
attached to

University of Teacher Education Fukuoka

本日のプロット



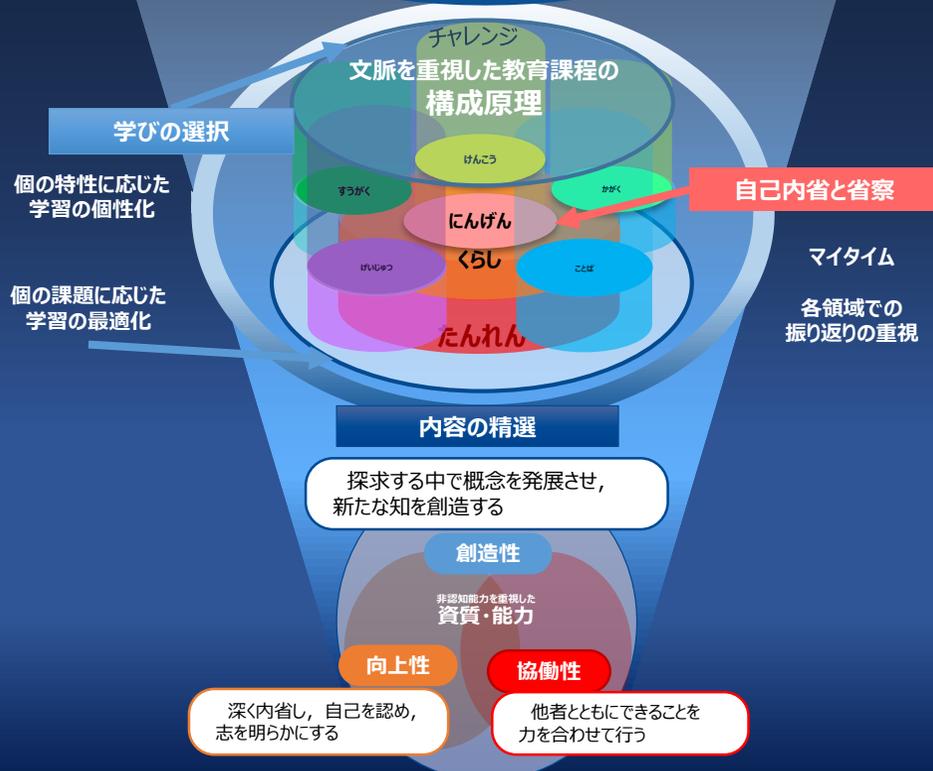
3つの資質・能力

教育課程の原理

探究の学び

4年間の成果

今後の課題



人間存在の原理



文化的
存在

創造性

非認知能力の重視

実存的
存在

向上性

協働性

社会的
存在

3つの資質・能力

自ら課題を設定し，調査・追究する
中で獲得した知をつなぎ組合せ新たな
知を創造する

創造性

未来創造型の資質・能力

向上性

深く内省し，自己を
あるがままに認め，志を
明らかにする

協働性

仲間や他者の考えに
耳を傾け，尊重し，
力を合わせる

人間重視だからこそ、子供の文脈が中心

Knowledge base

Human base



子供

社会

学問

子供

社会

新 コンテンツ

- 実際の課題解決
- 他の学習に活用

現行 コンテンツ 教科

内容の過多
重複

コンピテンシー

本校

- 実社会での実践
- 自分の生き方
- 他者との協働

コンテンツ 領域

- 価値ある知識
- 基礎的技能

内容
精選

編成の方針

文化的
存在

文化の学び

社会の学び

人間の
学び

実存的
存在

社会的
存在



カリキュラム編成の方針

幼稚園
5領域

諸外国の
教育課程

多重知能理論
MI



にんげん



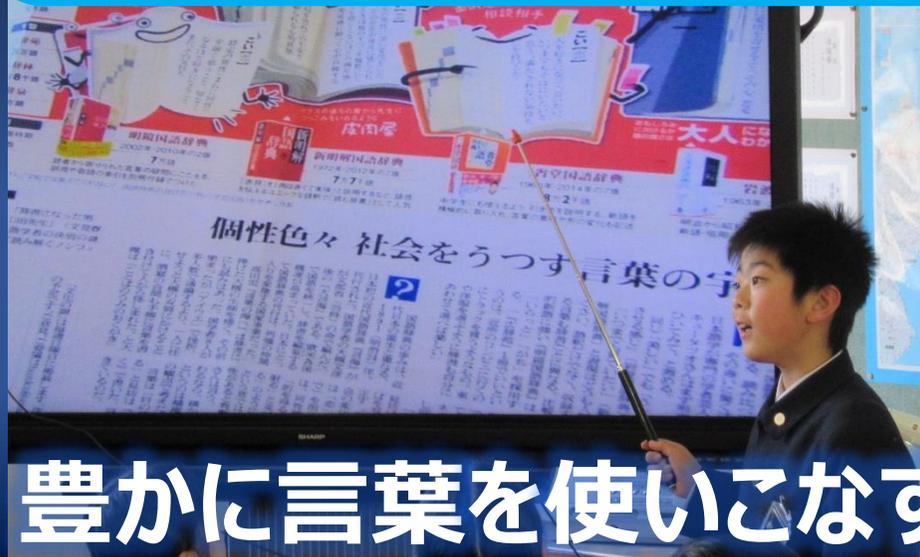
内省と協働的な実践

くらし



生活や社会との関わり

ことば



豊かに言葉を使いこなす

すうがく



直観的、論理的な推論

かがく



科学的課題解決力

げいじゅつ



美の感受と表現

けんこう



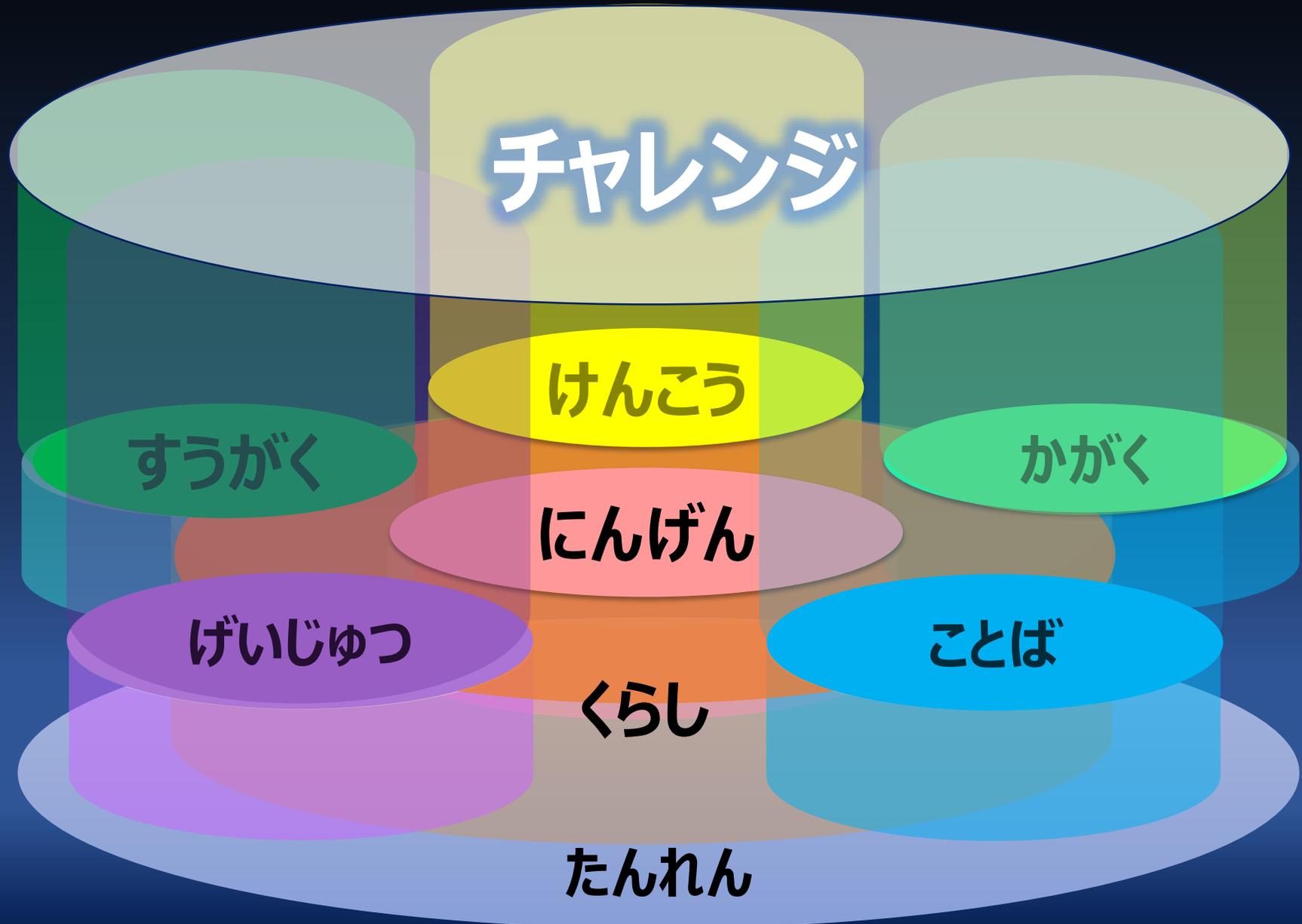
望ましい生活行動を実践

たんねん



必要な知識・技能の習得

教育課程 7領域＋たんれん＋チャレンジ



本年度の重点 1 カリキュラム編成原理



○ 内容の精選

教科Aの
内容

本質

教科Bの
内容

↓
本質

領域の内容

時数 **1** 割カット 年約 **100**時間

○ 内容精選の方法

移行

他学年，他領域に**内容**を移す

削除

内容を減らしたり削ったりする

統合

複数の内容を**合わせる**

○ 領域「ことば」の4年の内容精選例 P 4

読むことア 移行

A 全国学力調査で
教材文への依存度が
高いという指摘
他領域でも目的に
応じて習得可能

読むことイ 一部削除

E 反復・螺旋的な
内容のため削減
実態に応じて削除も
検討

書くこと 話すこと・聞くこと 統合

A 国語科，外国語科を関連して指導することを
通して，それぞれの言語運用能力を高める。

例 1 領域「ことば」の第 4 学年において

学んだことを他領域に生かす（移行）

C 読むこと（説明文）

ア 段落の関係を捉え理由や事例の関係を捉える

国
語
科

説明文 8 時間



表現物 8 時間

16 時間



ことば

説明文 8 時間

表現物 2 時間



「アジアの玄関口ふくおか」 6 時間
リーフレット作成を移行

マイナス

6

時間

例2 領域「ことば」の第4学年において

発展段階で読み広げる（削減）

C 読むこと（物語文）

イ 登場人物の行動や気持ちを捉える

国語科

物語文教材 1 1 4 時間



物語文教材 2 8 時間
2 2 時間



ことば

物語文教材 1

- 1 読みの課題解決
- 2 関連図書（教材 2）

1 4 時間

マイナス

8

時間

例3 領域「ことば」の第4学年において

日本語と英語を結び付ける（統合）

国 A 話すこと・聞くこと ア 説明や報告を話す・聞く
外 工 話すこと（ウ） 自分の考えや気持ちを話す

国
語

報告文教材 15時間

外
国

23時間

聞く・話す 8時間

ことば

報告文教材 10時間

1 書く

2 話す・聞く

3 留学生と交流 16時間

マイナス

7

時間

○ 内容の精選 時数の削減

新

5785

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語	道徳	特別活動	総合	外国語活動	計
1	306	0	136	0	102	68	68	0	102	0	34	34	0	0	850
2	315	0	175	0	105	70	70	0	105	0	35	35	0	0	910
3	245	70	175	90	0	60	60	0	105	0	35	35	70	35	980
4	245	90	175	105	0	60	60	0	105	0	35	35	70	35	1015
5	175	100	175	105	0	50	50	60	90	70	35	35	70	0	1015
6	175	105	175	105	0	50	50	55	90	70	35	35	70	0	1015
計	1461	365	1011	405	207	358	358	115	597	140	209	209	280	70	5785

本校

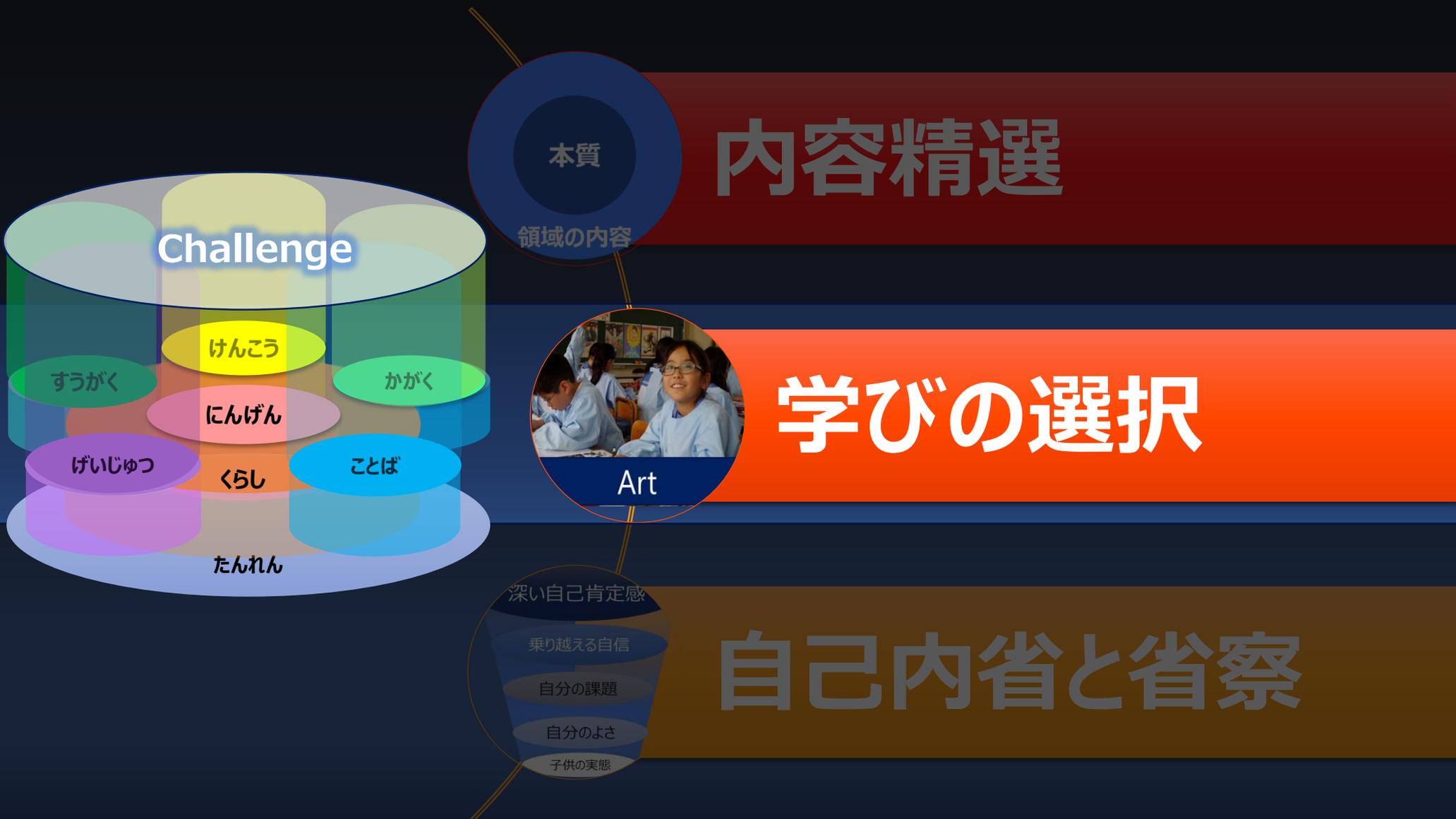
5308

	にんげん	くらし	ことば	すうがく	かがく	けんこう	げいじゅつ	チャレンジ	計
1	68	68	170	170	70	136	136	0	818
2	70	70	175	175	70	140	140	0	840
3	70	70	210	175	70	140	140	0	875
4	70	70	193	157	70	122	123	70	875
5	70	105	193	157	105	122	123	70	945
6	102	102	187	153	105	119	119	68	955
計	450	485	1128	987	490	779	781	208	5308
29年度比	-218	-105	-537	35	143	-52	-52	208	-626

昨年度比 **-626**

新課程比 **-477**

○ カリキュラム編成原理



たんれんの充実

学習の最適化

3, 4分 動的活動

3, 4分 動的活動

3分 静的活動

コグニサイズ
フラッシュカード
手拍子・ジャンプ
リズム・歌・立座り

音読
連れ読み
ペア・班読み
一人読み

ことば Lv4

すうがく Lv3

くらし Lv6

かがく Lv5



チャレンジの新設



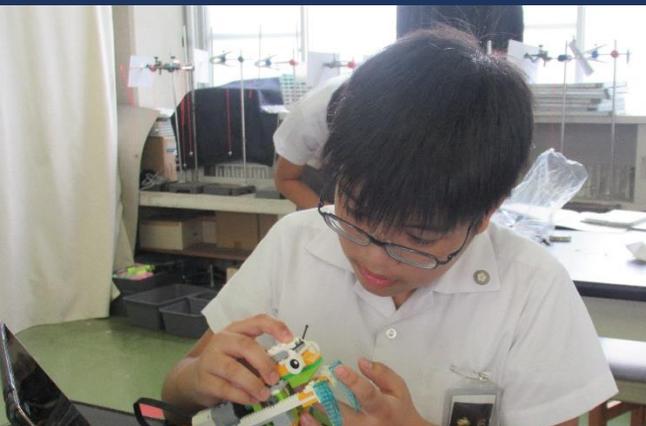
ランゲージ



クリエイト



ミュージック



サイエンス



スポーツ



アート

前半を終えての子供たちの感想

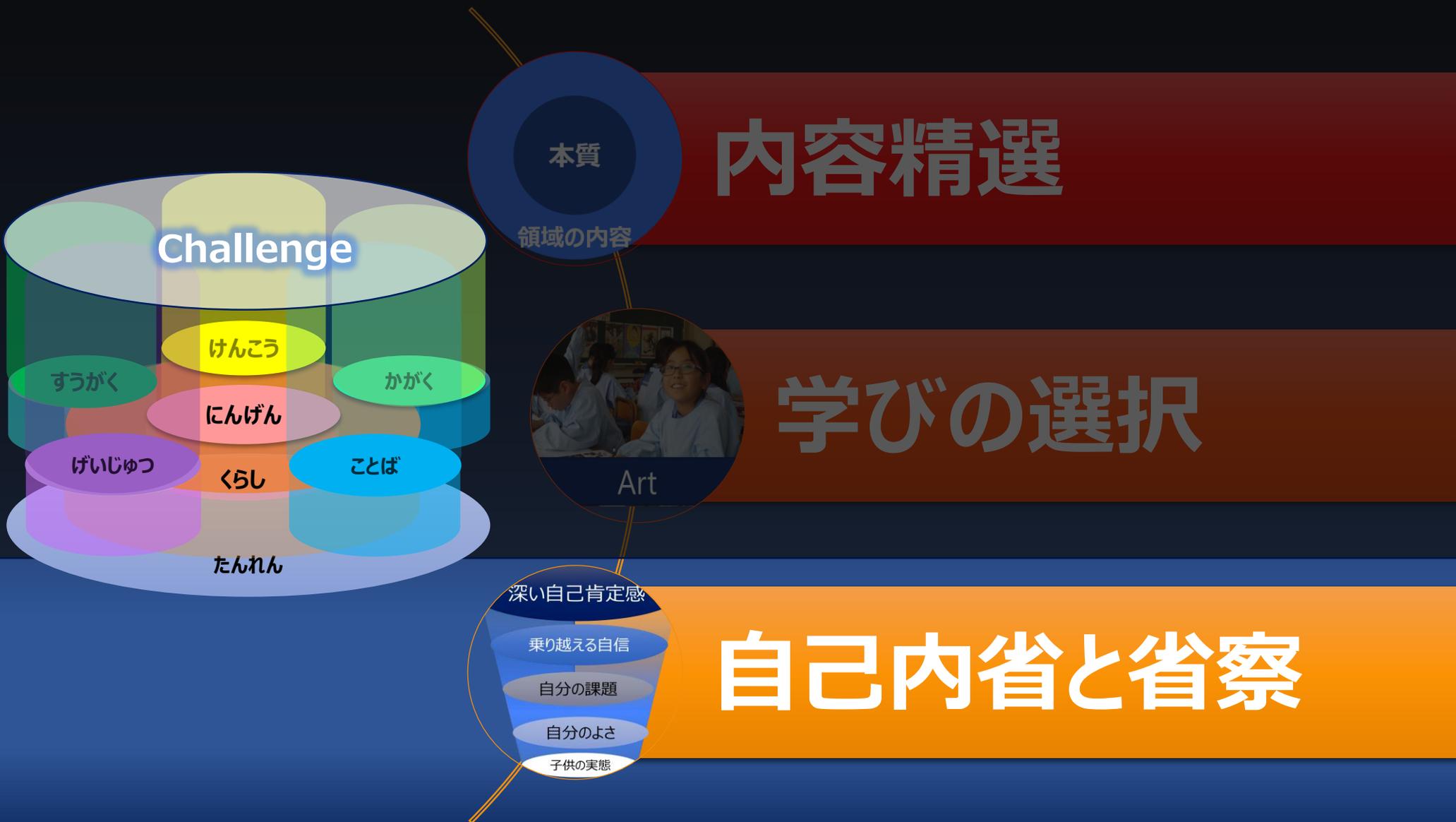


上手になったな。自分でもそう思えるようになったこと。
なにより、自分自身をよりよく変えたことが一番だと自分
で感じました。例えば、友達関係、きびしく伝え合う時、仲良く
する時、そんななみでも伝え合うとおたがい良くなって
次のチャレンジで、どう生かそうそんな目標ができたこと。



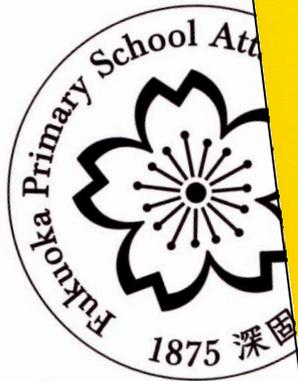
苦労したことは実験の方法です。質量を量る
時に体積や重さをはかる工夫をあれこれ
してやっとごくわずかな数値を出せました。
この研究をしてみて一番学んだことは自
然の生き物はすごいということです。よく聞く
言葉ですが、今回の研究を通して身をもって
体験することができました。

○ カリキュラム編成原理



マイタイムノート

マイタイム



My time note



My time notebook



低学年
日記タイプ

中・高学年
ツールタイプ

低学年 日記タイプ



きょうの ふりかえり	
だ い	四つばのクローバー
な ま え	
四つばのクローバーの「あい じょう」、「きぼう」、「せい じつ」、「こうふく」の四つの ことをおぼえたいです。なぜか というとその四つをおぼえると 気持ちがいいからです。それが ら、 <u>四つばのクローバーを見つ けたいです。見つけて、それを かんさつしたいです。</u>	
ごかていから	がっこう
<u>四つばのクローバーを見つけるといいね。</u> 四つのはっぱのいみ、すてきだと思ひまじ。	😊

学びの高まりを保護者と共有

中・高学年ツールタイプ

6年生スタートの時
一帯のぼくは、相手の
気持ちを考えずに自分
勝手に行動していた。

今までの自分

はいじつ
はいじつでは、おもに創造性を学びました
創造性とは、オリジナルなものを創りだすこと
に似ています。入札は競争のなか
題名に合せて、的を射るようなオリジナル
ソングをつくりました 創造性

すくなく
すくなくでは、向上性、創造性、協働性について学びました。
創造性とは、1つの問題でも式を何通りもつくり、工夫して
かみ大人に解ける方法を考えたりしました。向上性では創造性
いろいろな式をつくり、かみ大人をみながら競争して高めました。
協働性、向上性、創造性について同じ問題でも式などを考えました。

いんげん
いんげんでは向上性、協働性、創造性について、いんげんに対する
気持ちの多岐にわたる。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。
どの方向に行動をしたか発言したりする必要があったことを学びました。

くらし
くらしでは、社会のことに目を
向けて協働性を身に付けました
箱崎キャンパスでは福岡市
のしていることを6年生から
提案をすることで福岡市の協働性
が出てい、かと思っています。
創造性ではこのようなものが社会
に役立つよとか社会にとって良
いものを生み出したり、決まり
などを決めたりすることで小学
のクラスも変わると思ったり
それを社会に持ってくるよ
社会が良くなるかと思っています
協働性 創造性

今の自分
道徳心を
のこりも考
りが大セウだ

今の自分

ことば
ことばでは、対創造性を学びました。
仲間や短歌をつくり出すことで仲間や短歌
の意味が分かるよになりました。また
仲間や短歌を読むことでそれを歌った人が
どんな気持ちでどんな風景を見ながら
歌ったのかを想像して気持ちを考えました。
向上性では、仲間をかくいてから、いんげんを
読み合、てこの言葉がいんげんなどいんげん
良くていくことが大切だ、思いました。
文章を書くときも、例えや思い描く
順番を変えたりして、より良い文章
を書くことができたと思ったり
まじまじの良さを、この面では協働性も入ったと思ったり
すくなくでは、向上性、協働性、創造性について、いんげんに対する
気持ちを多岐にわたる。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。
どの方向に行動をしたか発言したりする必要があったことを学びました。

持って相手
えてするこ
し分が。大

大人の自分
いつも親に
たれから親らしいを
持つるよりにした

これからの自分

けんこう
けんこうでは向上性、創造性、協働性
について学びました。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。
この面では協働性も入ったと思ったり
向上性、協働性

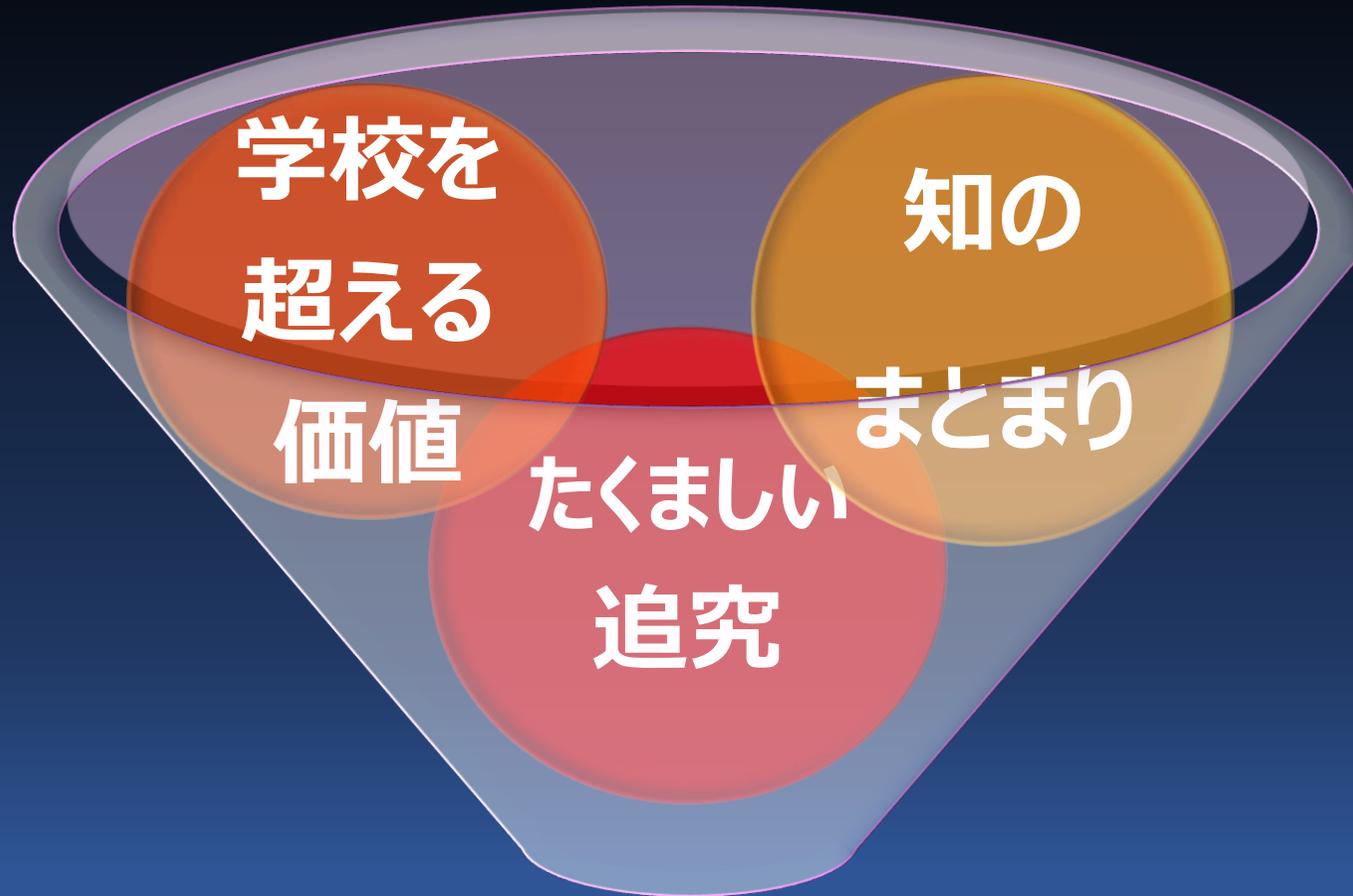
いんげん
いんげんでは向上性、創造性、協働性について、いんげんに対する
気持ちを多岐にわたる。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。いんげんをいんげん。
どの方向に行動をしたか発言したりする必要があったことを学びました。

7領域で見えた、学びの高まりを可視化

本年度の重点 2 探求の学び



真正の課題



探求の学び

6年「暮らし」トピック 「選挙で決めよう！未来へつながるまちづくり」

知の
まとめ

少子高齢化の原因と理由を考えるとともに、様々な政策のつくられる仕組みが分かる

たくましい
追究

仲間や福岡市役所と
共によりよいプランに
改善できる

学校を
超える
価値

福岡市に提案を
する中で未来社会を
生きる一人としての
自覚をもてる

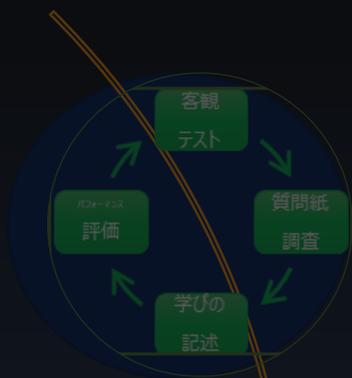


探求の学び

学習のための
評価

テーマ・
トピック

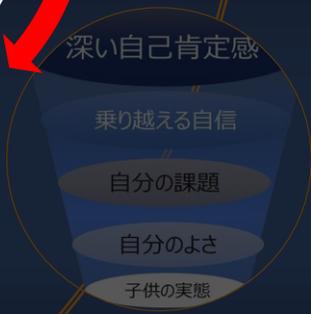
真正の
課題



学習のための評価

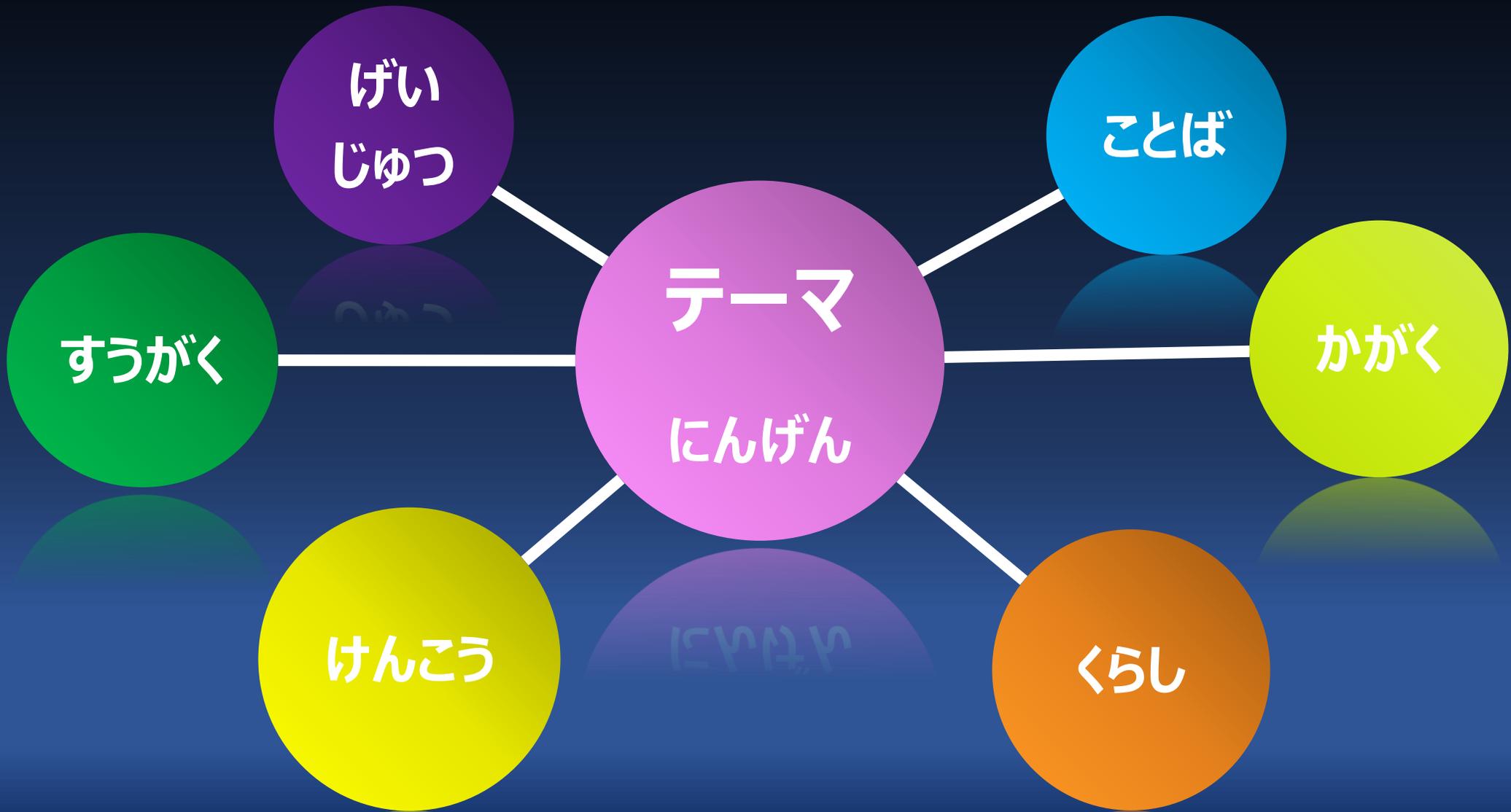


テーマ・トピック

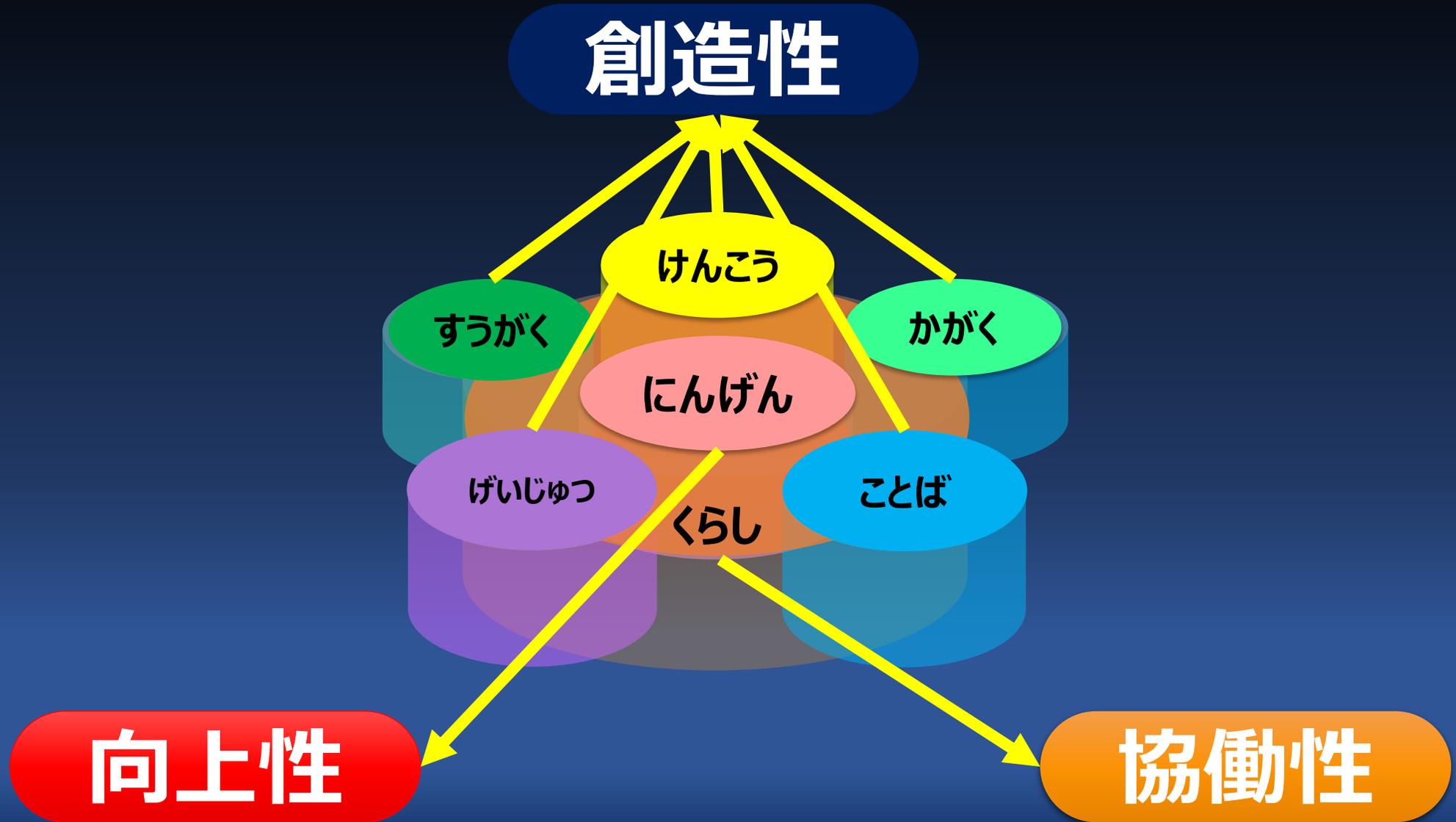


真正の課題

テーマ学習 内容の関連



トピック学習 資質・能力の関連



トピック学習 資質・能力の関連

協働性



トピック1

くらし



トピック3

げいじゆつ

創造性

トピック2

にんげん



向上性

6年「暮らし」トピック 「選挙で決めよう！未来へつながるまちづくり」

- ピンチはチャンス
- AIを活用
- 高齢化をビジネスに



- 経済に支障がでる
- 医療費が倍増する
- 街が廃墟になる

【中心の問い】
箱崎に未来の日本の課題を
乗り越えるまちをつくらう。

情報収集

サービス選択

コンセプトづくり

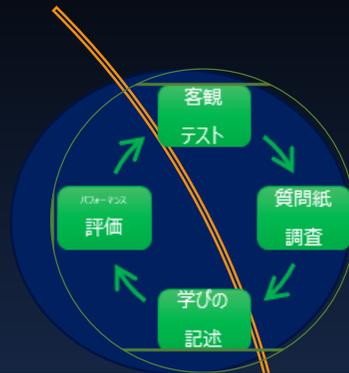
プランづくり

探求の学び

学習のための
評価

テーマ・
トピック

真正の
課題



学習のための評価



テーマ・トピック

深い自己肯定感

乗り越える自信

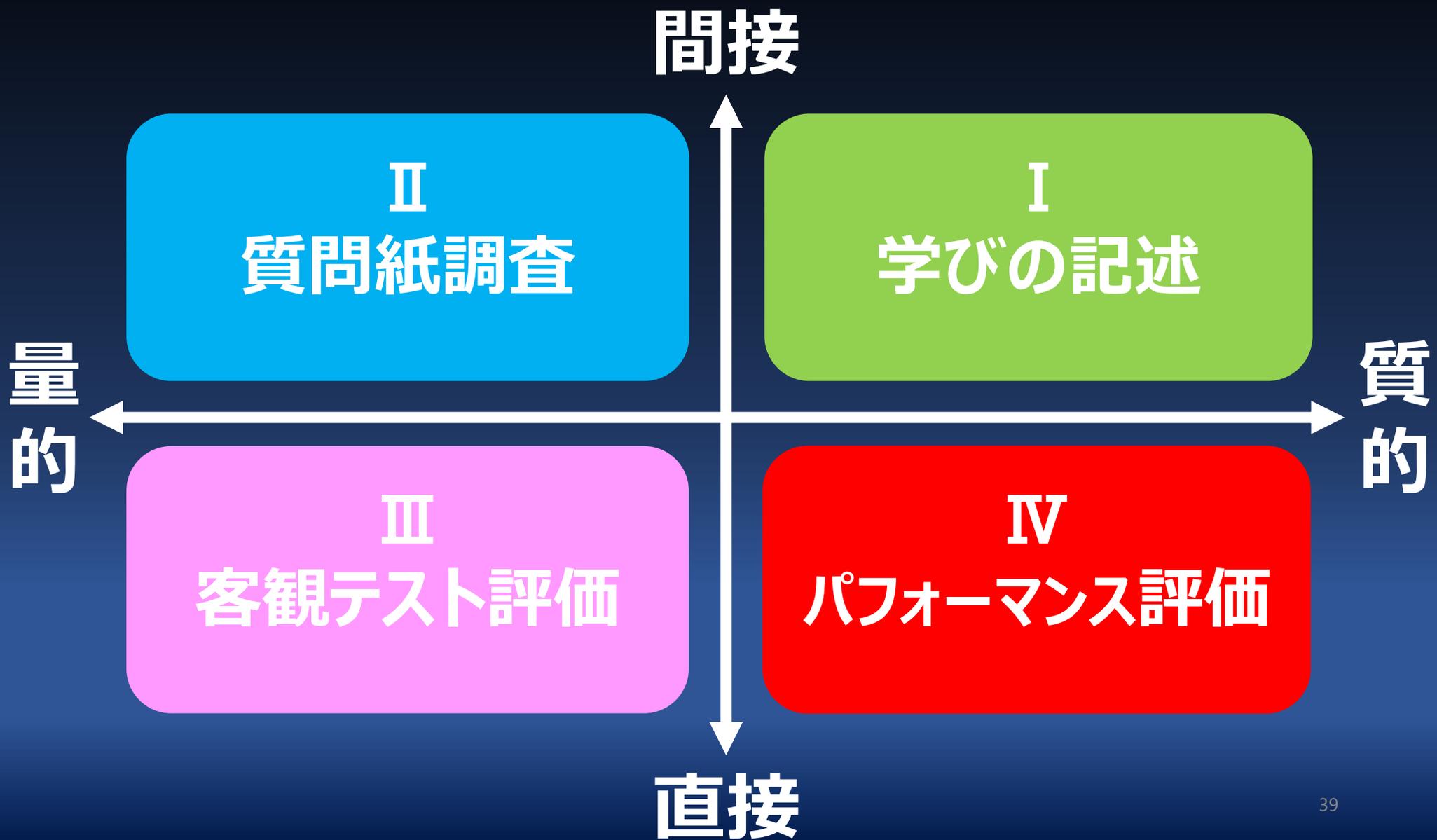
自分の課題

自分のよさ

子供の実態

真正の課題

自己内省と省察



自己内省と省察



6年「くらし」トピック 「選挙で決めよう！未来へつながるまちづくり」

客観テスト

質問紙調査

学びの記述

「志」達成度確認シート

11月 7日 (水) 1-2時間目

ぼくの・わたしのゴール

前と同じ・変わった

頂上に近付くために、次にすること・したいこと

最新の防災設備の資料をインターネットで調べてもってくる。

「対立の克服」について

2つの意見があり対立したが、民間の立場の人がこの技術を使えばいいと思うと提案し克服できた。これからそれぞれが自分の立場の情報をしっかり持ち、パワーを発揮できれば対立がなくなると分かったのでもと実行していきたい

パフォーマンス
評価

協働性

追跡 第4学年児童質問紙調査

自分以外のほかの人の気持ちをよく考えたいと思う。(N=71)

協働性

4年

平成30年度平均

3年

平成29年度平均

2年

平成28年度平均

1年

平成27年度平均

4.20 4.30 4.40 4.50 4.60 4.70

追跡 第6学年児童質問紙調査

自分の成功や失敗を思い出すのは得意である。(N=68)

向上性

6年

平成30年度平均

5年

平成29年度平均

4年

平成28年度平均

3年

平成27年度平均

3.60 3.80 4.00 4.20 4.40

43

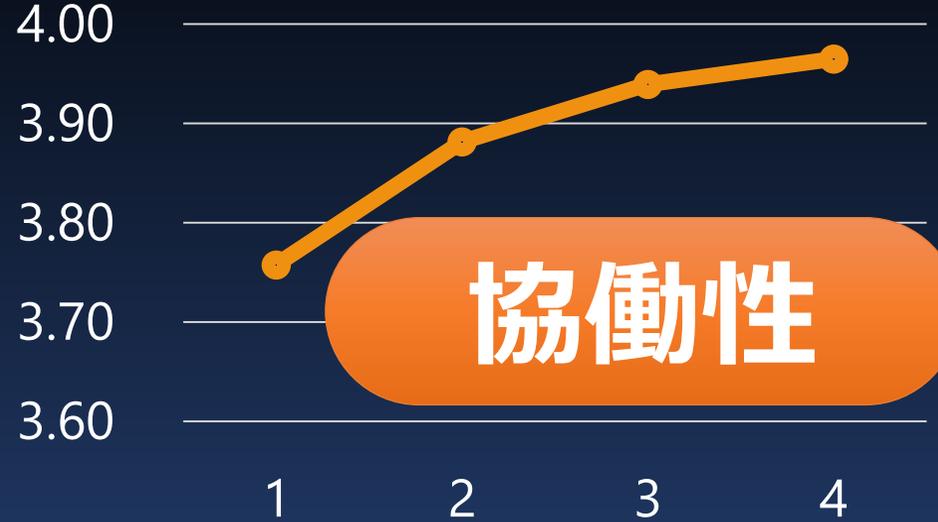
追跡 保護者質問紙 (N=61)

興味・関心について



創造性

意見の受容について



協働性

教科書の流れにとらわれず、広い分野を勉強していることで、子供の知識として

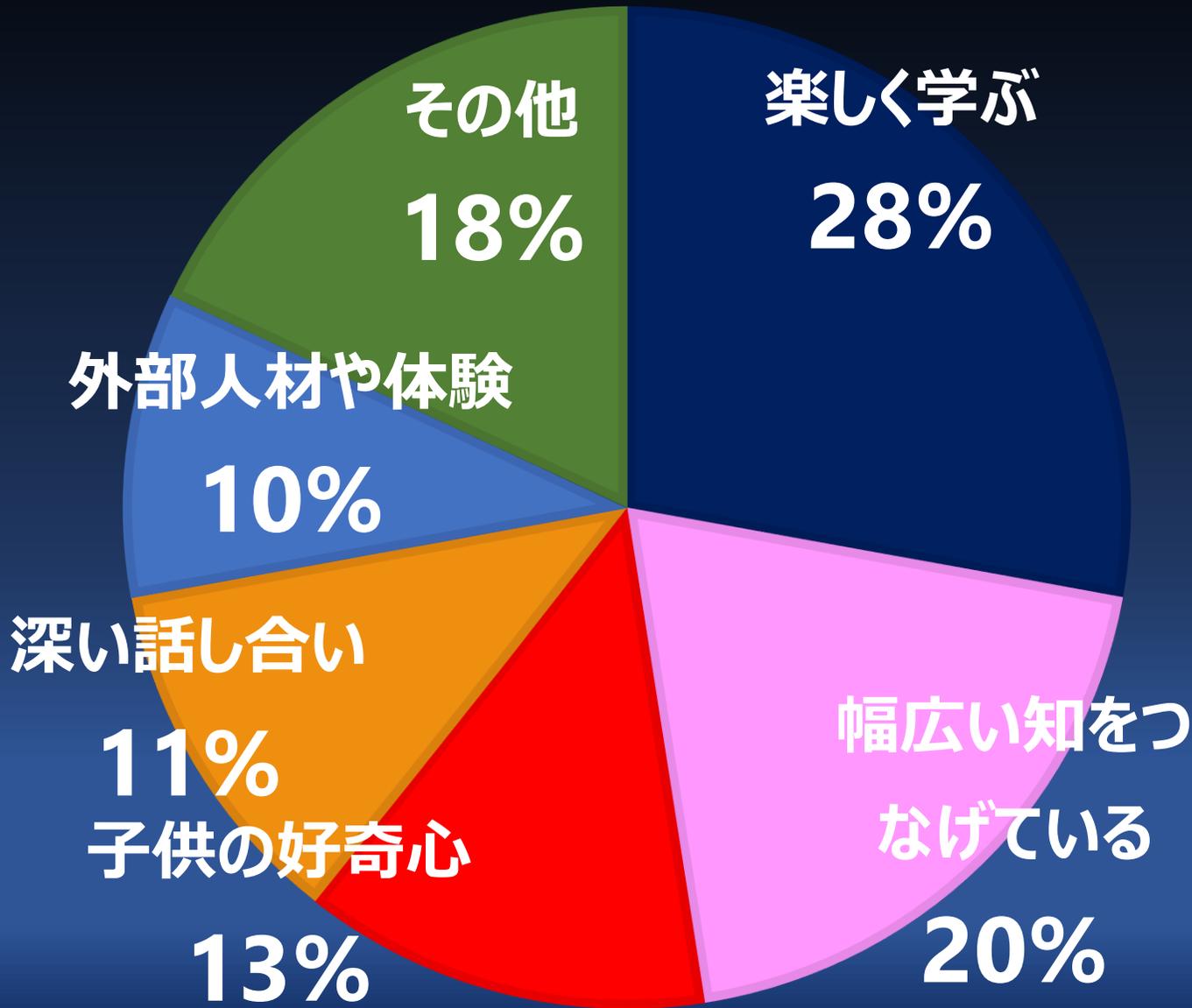
深まってきたと思いきり、参観も親が楽しめる授業ばかりでした。

教科の範囲を越えて広い視野で学べたことで、子供の中にも「この教

科を学ぶ」という意識ではなく、自分の持つ興味は、いろいろな分野にある

という認識の中でより意欲的に取り組めた。

肯定的な意見 (N=61 6年保護者)



教師の独創性

深い教材分析

子供の満足感

親の納得感

創造性

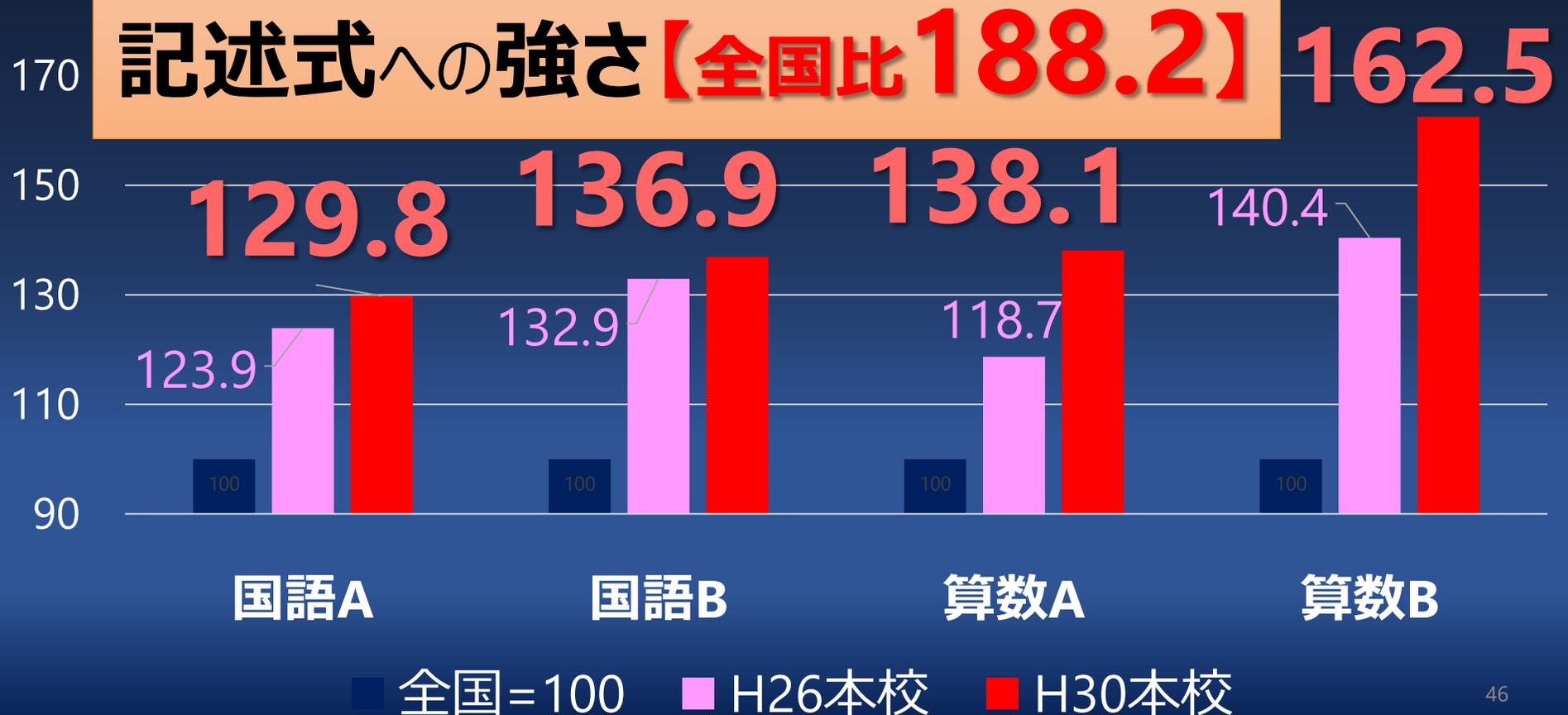
資質・能力の高まりは学力向上にも寄与するのか？

向上性

創造性

協働性

全国学力・学習状況調査 (H26_N=85, H30_N=74)



今後の課題

- 高学年になると質問紙調査の数値が下がる傾向
- 子供の学びが伝わらない
- 公立学校への具体的な汎用性

今後の課題

- 「学習としての評価」の充実
- 保護者・地域への効果的発信
- 児童，教師用資料，教科書試案

帰国子女教育

国際社会に生きる力を育てる

語彙指導の充実

読む・書くを重点化した
内容構成

個別のカリキュラム作成



特別支援教育

生活をつくり出す子供を育む 教育課程の編成Ⅲ

個別の指導計画

横断的な
カリキュラム編成

自立活動との関連



2月8日（金） 特別支援教育講演会



東京学芸大学

名誉教授

上野 一彦先生



第1日目 トークセッション1

コメンテーター

国立教育政策研究所

総括研究官 **福本 徹**先生

文部科学省

教科調査官 **菊池 英慈**先生

本学教育心理学講座

教授 **生田 淳一**先生



2月9日（土） 全体講演会



文部科学省
初等中等教育局
教育課程課

教科調査官

渋谷 一典先生



第2日目 トークセッション2

コメンテーター

文部科学省

教科調査官 **笠井 健一**先生

本学学校教育講座

准教授 **樋口 裕介**先生



未来社会を創造する主体を育成する 教育課程の編成



子供の文脈を重視する探求の学び



平成30年度 全体研究構想
文部科学省研究開発学校指定 4年次